

台湾・大溪の人々による産業遺産活用とまちづくりに学ぶ

-後藤織物調査メンバーによる活動報告-



1 大溪老茶廠

1926年、日本統治時代に「三井合名会社」が「日東紅茶」の商標をもって高級ブランド紅茶を生産した工場。戦後いったん閉鎖されるが、近年、新たに有機栽培の高級台湾茶の生産地として地域を起し、その拠点として工場を復活させた。建物と人々の営みの歴史を自らが継承する。



2 大溪老街 / 大溪木芸生態博物館

「大溪老街」は、200年以上にわたり木工芸産業の中心地として発展し、清朝時代からの建物が多く残っている。日本統治時代に行われた市区改正では主要な街区がバロック式のファサードに統一され、大漢溪の川岸には警察の官舎が建てられた。この官舎群を活用し、2015年に「大溪木芸生態博物館」が開館する。木工芸の歴史や文化を保存・継承するために、博物館と「大溪老街」の住民が連携し、様々なアイデアをもって運営されている。



同じく2015年、まちなかの歴史的建築「蘭室」を有志が買い取り、建物の公開や展示会等を企画。建物の保存・活用に挑む人々の交流の場として活用するなど、まちづくりの拠点となっている。



3 私立淡江高級中学

1884年に創立した、台湾で初めての女学校（現在は共学）。創立から現代に至るまでの間に校舎や礼拝堂、体育館、記念館などが次々と建てられ、その建築年代や様式は学校の歴史や精神性を語るものとなっている。



4 旧台北勸業銀行

1933年竣工。第二次世界大戦後は台湾土地銀行本店として使用され、現在は国立台湾博物館の別館「土地銀行展示館」として活用されている。銀行ならではの大空間の使い方や、金庫室のような重要な部屋の残し方に、歴史的な建物と展示物の双方を活かすための工夫を見ることができる。



5 旧台北市浄水場

日本統治時代に設立された浄水施設。現在、敷地一帯は公園として整備され、市民たちの憩いの場となっている。その中心には、1908年にバロック様式で建てられたポンプ室が設備類を含め設立当時の姿のまま保存されており、衛生環境の改善に奔走した人々の歴史を静かに伝えている。



6 新富町文化市場

日本統治時代の1935年、台北の近代化推進事業の一環として、U字型平面の公設市場が建設され、ここにそれまでの露天を収容した。戦後、露天は旧形体に戻り、公設市場は倉庫と化すが、近年、文化財として復活させることとなり、現在は民間建設会社出資の非営利団体によって管理・運営されている。



7 文化資産実務研究会

文化財の調査・保存修理・活用に関わる若手が自主的に集まり、月に1回開催している勉強会。仕事で直面している課題を発表しあい、意見交換をする場となっている。

発表者プロフィール

加藤 浩一 K. Design一級建築士事務所
桐生伝建修習の会代表

2006以降、群馬県内の歴史的建造物保存に関わる団体にて民家や社寺の調査・修復に中心的に関わる。2014から「桐生伝建修習の会」活動に携わり、現在は会員一同で「後藤織物」の総合調査に取り組む。これを機に、地域に貢献するための活動の充実をめざし、社会的な役割や将来の運営などについても学習に励んでいる。

久保田 真理子 Leo一級建築士事務所
桐生伝建修習の会会員

2009に地元で講習会があり、初の歴史的建造物調査体験。続けて2011の3.11震災において桐生の伝統的建造物群保存地区の被害状況調査に参加。2023から修習の会の一員として、「後藤織物」の総合調査に加わる。目下のところ、初心者として実測から作図、調書の作成などに携わり、基礎から学んでいる。

星野 儼日 テクスト桐生株式会社 代表取締役社長

仲間と共同出資してテキスト桐生株式会社を設立し、市民の一人として桐生の文化遺産である登録有形文化財「後藤織物」を購入・所有し、歴史ある製織町・桐生の文化を未来に継承する場として活用を図るべく活動。地域の歴史・文化を学び継承するためのさまざまな活動に関わり、企業関係者や若者たちなどと共に、次代の担い手となるべく学んでいる。